

先生のための「夏休み経済教室」

2026.8

「シン経済教育」の提案を受けて —教科教育研究の立場から—

実践女子大学研究推進機構

元東洋大学

栗原 久

「4つの基盤」によるシン経済教育

○私からは、次の3点についてお話ししたい。

- ① 「社会を支える4つの基盤」と社会機能法
- ② 「肌感覚での理解」をどうとらえるか
- ③ 「使える知識」への可能性

① 「社会を支える 4 つの基盤」と社会機能法

小学校社会科の学習内容

- 第3学年：交通の広がり、市役所など公共施設の働き（租税）、生産（農家・工場）や販売の仕事、地域の安全を守る働き（消防署や警察署など）
- 第4学年：人々の健康や生活環境を支える事業（飲料水・電気・ガス、廃棄物処理）、自然災害から人々を守る活動（県庁・市役所、警察署・消防署、消防団・地域の自主防災組織、自衛隊など）

- 第5学年：食料生産（農林水産業）、工業生産、産業と情報との関わり（放送、新聞、情報通信技術など）、国土の自然環境と国民生活（公害防止の取組）
- 第6学年：日本国憲法、国や地方公共団体の政治、法令や予算、租税など

小学校社会科の学習内容は

- 同心円的拡大：近くから、遠くへ
- 学校→通学区→市区町村→都道府県→日本→国際社会
- 社会機能法：人や社会の基本的欲求，秩序維持に果たす諸機能（役割）から学習内容を構成する。
- 生産・分配，交通，通信，安全，廃棄物処理など。

社会学における「機能要件」の考え方

- 「機能要件（functional prerequisites）」：社会システムが存続するために不可欠な基本的機能のこと
- T.パースンズの「AGIL図式」
 - A（Adaptation：適応）：経済システム（産業や企業など）
 - G（Goal Attainment：目標達成）：政治システムや政府
 - I（Integration：統合）：法制度、警察、慣習など
 - L（Latency / Pattern Maintenance：家族、教育機関、宗教など

シン経済教育の「社会を支える4つの基盤」は…

- 小学校社会科の内容構成原理である「社会機能法」を踏まえたものになっている。
- 小学校第3・4学年の「内容」と、「4つの基盤」の「C 生活」「D インフラ」は重なるところが多い。
- よって、社会科教育とは親和性が高いと考えられる。

②「肌感覚での理解」をどう
とらえるか

「肌感覚での理解」とは

- 肌感覚での理解（＝肌感でわかる）：理屈やデータだけでなく、自分自身のこれまでの経験や現場での実感を通して、直感的に物事を理解すること。
- スキーマ（schema）：人が過去の経験や知識から作り上げた「認知の枠組み」や「思い込みのパターン」のこと。人が「経験から導出した暗黙の知識」（今井むつみ「学力喪失」岩波新書）
- つまり、「肌感覚による理解」とは、各人が経験によりスキーマを形成すること

やっかいなのは…

- 「スキーマは学習に欠かせない」。「当該分野のスキーマを持つことは、「生きた知識」をつくるために必須である」
- 「しかし…すべてのスキーマが正しいわけではない」（今井）

卸売業者は不要か？

2022年度三重県高校入試問題

2023年度石川県高校入試問題

2023年度群馬県高校入試問題

このように…

- 「流通の合理化」にかかわる問題が、毎年、どこかの都道府県で出題されている。
- しかも、きまって「卸売業者を介さなければ、より安い値段で商品が消費者に届く」といった解答（説明）を求める出題内容である。
- 「教科書記述や授業がそうだから」→「入試問題がこうなっている」のか？
- 「入試問題がこうなっているから」→「教科書記述や授業がそうになっている」のか？

存在するものには、理由がある

- 小規模の小売業者にとって、10種類のチョコを10社から仕入れるのは、手間（費用）がかかる。
- チョコメーカーにとっては、全国の何百という小売店に少量のチョコをそれぞれ卸しては、手間（費用）がかかる。
- この手間（費用）を省くところに、卸売業者が介在する理由がある。
- そのほかにも、適時適量の商品を小売業者へ供給するための保管機能や、新製品の情報提供機能（例：医薬品卸会社の営業職から医師への新薬情報の提供）、金融機能（消費者が商品を購入する前に、メーカーは卸売業者から販売代金を回収できる）などもある。

「肌感覚での理解」から「深い学び」へ

- 「卸売業者を介さなければ、より安い値段で商品が消費者に届く」という説明は、中学生にとって「肌感覚」でわかりやすいかもしれない。
- しかし、入り口は肌感覚で良いが、授業をここで止めてはいけない。
- 「誤ったスキーマを修正するのが、学校での学びの大きな役割である」（今井）のだから。
- 「存在するものには、理由がある」。この理由を、とことん追究する経済の授業であってほしい
 - これによってこそ、「経済的な見方・考え方」を学ばせることができる。「深い学び」が実現できる。

③ 「使える知識」 への可能性

知識の成長の三段階

知っている

金融政策って何のこと？
金融政策の手段には、どのようなものがあるか？

わかっている

資金吸収オペを実施すると、
経済にはどんな影響があるか？

使える

もし、あなたが日銀総裁なら、
現在の経済状況では、どんな
金融政策をとるか？

知識を「使える」とは

- 石井英真氏（京大）によれば…「今後の教育課程の在り方について」（https://www.mext.go.jp/content/20230713-kyouiku_01-000030920-04.pdf）
- 「使える」とは、「知識の有意意味な使用と創造」のこと。
- 知的問題解決、意思決定、仮説的推論を含む証明・実験・調査、知やモノの創発（批判的思考や創造的思考が深く関わる）

新井先生のご指摘

- このプログラムの到達点は、「自分は経済社会の参加者だという自覚。「次はどんな社会にすべきか」を考えられる」こと。
 - それは、「社会への向き合い方が変わること」
 - この指摘は、まさに石井氏の言う知識を「使える」ことに深く関わる。
-
- シン経済教育が、その「手がかり（＝問題解決へのヒント）」や「足がかり（＝前進や発展の第一歩）」となってくれることを期待したい。